

# ふくよか

2015冬号

■長崎県病院企業団本部  
■平成27年1月発行



## 目次 CONTENTS

### p2.....企業長より

平成27年 年頭所感  
“健診は自分と家族への最高のプレゼント!!”

### p3.....話題の職員紹介

五島中央病院 村瀬邦彦新院長にインタビュー

### p4.....特集① 企業団の新しい仲間 杵岐病院

加入も間近！杵岐病院に聞いてみました

### p6.....特集② 中堅職員研修 i n ながさき式見ハイツ

中堅職員が熱い！初開催の研修を報告

### p7.....地域から

絶景や日本三大〇〇〇も紹介 上五島病院

### p8.....Break Time

[今年の干支にちなんで]



vol.  
02



# 平成二十七年

## 年頭所感



”健診は自分と家族への最高のプレゼント!!”を  
キャッチフレーズに

2025年問題を乗り切ろう!!

企業長 / 米倉 正大



明けましておめでとございます。

昨年、水害などの甚大な災害や火山活動の活発化などの自然の脅威にさらされた年でした。今年こそは平穩無事な年であってほしいと願うばかりです。各病院では、入院患者さんや救急患者さんの対応で忙しい年末年始を過ごされた職員がおられたことと思います。医療人であれば、当然のこととはいえ、大変ご苦労様でした。

# 未



さて、昨年の研究会でもシンポジウムのテーマになった2025年の少子高齢化問題は、考えてみますとまだ10年、いやあと10年しかありません。10年後は、長崎県の離島・へき地では65歳以上と未満の人口比が約1対1になるときです(図1)。

離島の医療を担っている病院企業団としては、どのような医療機能の充実をなすべ

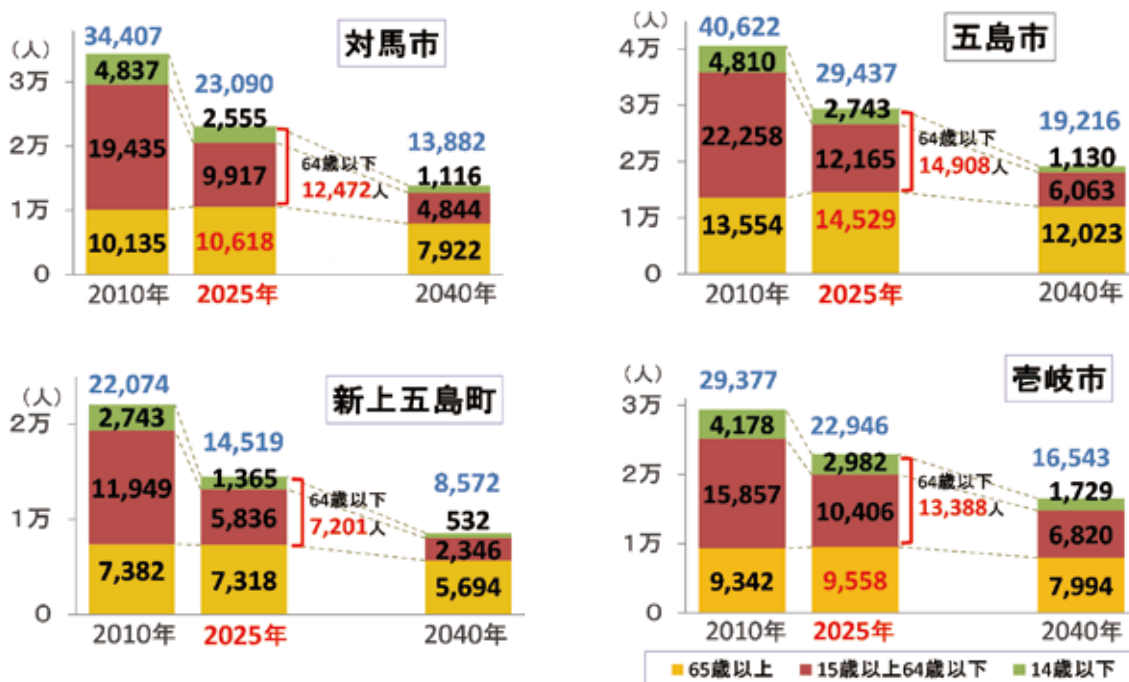


図1 長崎県離島の人口推移

## 話題の職員紹介 Vol.2

平成26年10月から五島中央病院に赴任された  
村瀬院長にお話を伺いました。



村瀬 邦彦（むらせ・くにひこ）

専門分野は消化管

昭和28年対馬市生まれ。

昭和54年3月 長崎大学医学部卒業

昭和60年9月 五島中央病院内科副院長

昭和63年3月 聖フランシスコ病院内科部長

平成5年12月 長崎市立成人病センター医長

平成6年10月 長崎大学医学部第2内科助手

平成7年 4月 マックマスター大学へ留学

平成10年4月 長崎大学医学部第2内科講師、

医局長、助教授を歴任

平成15年4月 中対馬病院副院長

平成20年4月 同病院長

平成26年10月 五島中央病院院長

Q.医学生時代、勉強のほかに打ち込んでいたことはありますか？

A.6年間バスケット部に所属しており、練習後の経験が現在の仕事に役立っています。

Q.平成7年4月から2年間、カナダに留学されていますが、その当時の思い出を教えてください。

A.英語が苦手で研究では苦労しました。大学がトロントとナイアガラの滝の間にあり、自然豊かなところで、休日は家族で楽しい時間を過ごしました。

Q.休日の過ごし方、リフレッシュ法などがあれば教えてください。

A.最近では、病院周りの散歩です。

Q.五島には以前にも赴任されていましたが、地域や病院などで以前と変わっていて驚かれたことはありますか？

A.福江中心部の商店街の閑散とした状況に反して、病院周辺の郊外型大型店舗の繁盛ぶりに驚きました。木場町にあった旧病院は古い印象しかありませんでしたが、現病院は築10年ですがまだ新しく、楽しく仕事できています。

Q.今後の目標は？

A.患者サービスの向上と、医師（医学生）や看護師（看護学生）の教育システムの充実を目指したいと思っています。

☆最後に、院長から一言

「一步一步前に進みたいと考えていますので、よろしくをお願いします。」

きか、そのための医療人材確保ができるのだらうかというような視点は重要ですので、これまで同様進めていきます。

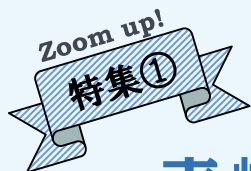
しかし、それだけでは片手落ちです。住民が65歳以上になっても、医療や介護に頼ることなく、健康で健やかに老いていくようなシステムづくりも重要です。これまで行政に任せきりだった住民への健康の意識づけや健診を病院企業団も協力して取り組むことが重要と思われれます。

最近のデータでは、長崎県の平均寿命は全国43位と最下位近くにあり、健康寿命は、さらに下位で45番目とトップから大きく引き離されています。これは県本土に比べ、離島・へき地の住民の健康状態の悪さが、足を引っ張っていると言われていま

す。まずは生活習慣病である高血圧や糖尿病などを早期に発見し、生活態度の見直しや早期治療につなげるシステムを作ることが重要と思います。これから離島での働き手

が急激に減少し、医療人材不足が予想される中、住民の健康寿命を延ばすことが2025年問題を乗り切る最大のカギだと思えます。

『健診は、自分と家族への最高のプレゼント!!』  
をキャッチフレーズに、住民の健康への意識作りをはじめ、地域に寄り添った健診システム作りプロジェクトを進めていきたいと思えます。ご協力をよろしくお願ひします。



企業団の新しい仲間

## 彦岐病院に聞いてみました!

今回は、平成27年4月から企業団に仲間入りする「彦岐病院」  
(現 彦岐市民病院) に、病院の歴史や特色などを伺いました。



### Q・彦岐病院って どんな病院?

歴史は古く、明治28年に「彦岐郡立病院」として創設されました。彦岐地域の中核病院として、救急医療をはじめ地域において基幹的な役割を担ってきました。

平成17年5月、現在の場所に移転新築し、平成25年4月には旧国立病院で彦岐市に移譲された「かたばる病院」を吸収合併して現在に至っています。

病院の基本理念にある「患者さんが安心して治療・療養に専念でき、職員が希望と誇りを持って働く病院、先進的で温かい包括医療ができる地域の中核病院」を目指し、急性期病棟(2病棟)、地域包括ケア病棟、療養病棟の4病棟、合計228床を有する病院として運営しています。

### Q・どうして企業団に加入 するようになったの?

かつては、市からの繰入れを含めてではありませんが、黒字基調を続けておりました。ところが、平成10年代の終わりにころになると、医師をはじめとするスタッフの確保がままならず、経営状況も厳しくなりました。

特に、福岡県内の大学からの医師派遣が縮小されてからは、恒常的な赤字体質におちいつてしまいました。医師を確保するため、市長を先頭にあらゆる努力をつくしましたが成果はなく、彦岐市単独で病院を運営することはあきらめざるを得ないとの判断に至りました。

このため、病院再建には、離島医療の運営に欠かせないノウハウやガバナンス機能をお持ちの、長崎県病院企業団に加入させていただくしかないことと決断したものです。



**Q・医師の体制は  
どうなっているの？**

平成26年12月現在、17診療科に13名の常勤医師がおります。

○杵岐病院における  
常勤医師の内訳

診療科	人数
内科	7
外科	0
整形外科	2
小児科	1
産婦人科	1
眼科	1
皮膚科	1

このほか、九州大学や福岡大学、久留米大学を中心に非常勤医師を派遣していただいています。

**Q・これから、  
どんな病院をめざすの？**

まずは2次救急医療機関として役割をしっかりと果たしていくことです。

杵岐は民間の病院・診療所が充実していますので、プライマリケアについては、そこをお願いし、手術など専門医療が必要な2次医療については可能な限り、杵岐病



院が受け持ちたいと考えています。

高度医療については、県のドクターヘリや、自衛隊のヘリ搬送も活用しながら本土の病院にお願いすることになります。地理的条件により、従来からつながりの

**Check!**

**総病院長はこんな人！**



当院は、杵岐市3万人の健康増進と病気に対する治療を行う地域中核病院です。そのため、特に救急医療、地域連携、研修教育及び研修医教育（若手育成）に力を入れています。

職員みんなで楽しい職場づくりに励んでいます。

**向原 茂明（むこうばら・しげあき）**

昭和51年 北里大学医学部卒。  
長崎県養成医として、県内の離島病院や旧県立病院において診療に従事。  
その後、国立長崎中央病院（現・長崎医療センター）、厚生省九州地方医務局（現・厚生労働省九州厚生局）勤務を経て、平成14年に長崎医療センター副院長就任。  
平成16年より長崎県島原病院長、平成19年より長崎県福祉保健部参事監。平成25年4月より現職。

深い福岡の病院との連携強化も必要と考えています。

また、教育研修体制を強化して、研修医や若い看護師さんたちの地域医療の研修を受け入れ、いつでも若者が集う病院を目指します。

なお、今年中には研修医の宿泊施設も完成する予定です。将来的には、平成29年度から新たに制度化される総合診療専門医の離島における研修拠点として環境整備していきます。

特集②

# 中堅職員研修 in ながさき式見ハイツ

去る12月12日から13日の2日間にわたり、初開催となる中堅職員研修が行われました。各病院、各職種から36名が参加した研修会の様子を報告します。



中堅職員の役割は・・・  
後輩の指導育成では「褒める」こと  
職場のご意見番になり、明るい雰囲気作り  
ポジティブ思考でモチベーションアップ↑

“創意と意欲が組織の総意を動かす”



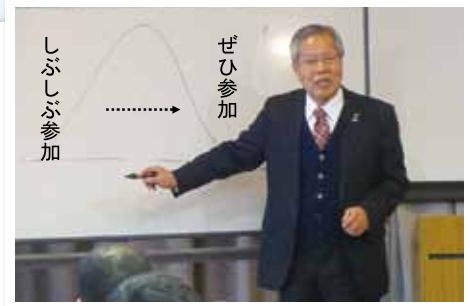
## 1日目

- 9:30 企業長あいさつ
- 9:50 オリエンテーション
- 10:00 コミュニケーションゲーム  
自己紹介ゲーム(ハイ!ポーズ)  
紐つなぎ ボール取り
- 12:00 昼食
- 13:00 ワークショップ  
「中堅職員として地域住民に信頼される  
病院作りに何ができるか」
- 16:00 休憩、チェックイン
- 17:00 講演「中堅職員に期待するもの」  
講師 上五島病院院長 八坂貴宏先生
- 18:00 親睦会

## 2日目

- 8:30 目覚めの体操
- 9:00 発表準備、まとめ
- 10:00 グループ発表
- 11:30 ～終了～

### ◆◆SCHEDULE◆◆



職員の研修意欲を山に例え、「積極的に参加した人は多くないはずだが、この研修で参加してよかったと思えるようにしてもらいたい」

#### ～参加者より～

参加する前はグラフの左側だったが、帰る今は右側になった。  
研修に参加して、このような気持ちの変化は初めてだった。  
自分にできる事から始めたいと思う。



#### ～参加者より～

- ・中堅という自覚があまりなかった自分だが、仲間が集まり意見を出すことで共感できた
- ・WSで改めて中堅職員としての立場、やるべき事等を考えることができた
- ・中堅職員の団結が地域の活力を生むのだと思った
- ・同世代ということもあり、共感でき刺激になった
- ・面識のない人たちと目的に向かって楽しく共同作業でき、参加して良かった
- ・他の病院職員、他職種の方と交流できたことは非常に大きかった。様々な意見を耳にすることで自分自身の成長につながったと実感している

#### ～研修を終えて(担当より)～

今回初めて実施した研修ですが、最後に“楽しかった”と皆さんが握手をして帰っていかれるのが印象的でした。  
ご協力ありがとうございました。(総務人事班 北川)







{シリーズ}  
**地域から**

Vol.2

**新上五島町（上五島病院）**

地域の見どころや病院での取り組みなどについて  
紹介していただくコーナーです

▶ **新上五島町について** 

長崎から西へ約80 kmに位置する五島列島の北部に新上五島町があります。7つの有人島と60あまりの無人島からなり、島の一部は西海国立公園に指定されており、素晴らしい自然に囲まれています。

新上五島町は、平成16年に5つの町が合併し誕生しました。歌手のさだまさしさん作曲の町歌「五つ星」は、正午に曲が流れ、町民の心に一時の癒しを運んでくれます。

この島には国の重要文化財に指定された<sup>あおさがうら</sup>「青砂ヶ浦教会」、石造りで有名な<sup>かしらがしま</sup>「頭ヶ島教会」など29もの教会があり、今も信者たちの祈りの場として大切に守られています。近年は「教会めぐり」に多くの観光客が訪れます。

景色のお勧めスポットは、「ホテルマルゲリータ」から見える朝日と夕日です。<sup>やがため</sup>矢堅目灯台の夕日は絶景そのものです。



食べ物では素晴らしい上五島の自然で育まれた「五島手延べうどん」。日本三大うどんのひとつにも数えられています。細くてコシがあり、もちり、つるつとした食感と喉ごしの良さは、製造工程で何度も熟成させることで生み出されます。

▶ **上五島病院について** 

平成21～24年の医療体制再編成により、有川・奈良尾の2病院は無床診療所となり、上五島病院は、人口およそ21,000人の島民の医療を確保維持する唯一の病院となりました。以前にもまして、島民にとって「なくてはならない病院」として重要な使命を課せられることになりました。

当院は、内科ほか15診療科で、救急告示病院・災害拠点病院等の機能を担っており、急性期医療から慢性期・回復期・ターミナル期などあらゆる医療提供を求められます。平成16年には電子カルテやP A C Sを導入してIT化を一気に進め、昨年4月には最新式80列CT導入により信頼される医療の提供につとめています。

離島という環境や少子高齢化・人口減少など、島をとりまく環境には厳しいものがありますが、これからも地域に信頼され親しまれる病院をめざして、安心・安全な医療の提供が出来るよう努力していきます。



## 今年の“干支”にちなんで

新年、おめでとうございます。

今年は未年です。それにちなんで、羊の話を。といっても、羊さんには申し訳ないのですが、食べる話です。

長崎ではあまりなじみがないのでしょうか、私もはじめて羊肉（マトン）を食べたのは大学生になってからでした。土曜日、体育系クラブでの練習の後、時々ジギスカンコンパを開いておりました。独特のにおいがちょっと気になりますが、普段肉に飢えていたこともあり、こそとばかり腹いっぱい食べた記憶があります。

社会人となり、思い出として残っているのは、北海道に出張で出かけたときに立ち寄った札幌の「だるま」です。決して高級ではありません（というより庶民的な店です）が、広く知れわたっているようですからご存知の方もいらっしゃると思います。ここの肉は臭みがありません。タマネギたっぷり、肉は柔らかく、タレもおいしくて、サッポロビールとの相性もバツグンでした。

ジギスカンは食べたいけれど、北海道まで行く機会なんてないよ、という人におすすめなのが、東京新橋にある「金の羊」です。雑誌で知ったのですが、国会議員を辞めて、現在タレントとして活躍中の杉村太蔵氏（北海道出身）が「北海道で食べるよりうまい」と絶賛する店です。肉はアイルランド産でまったく臭みがないそうです。

番外として、20年ちかく前に行った中国新疆ウイグル自治区の中心都市ウルムチで食べたシシカバブーがあります。これは、羊肉版の焼き鳥といったもので、ステンレスの串に刺してあり、香辛料がたっぷりかかって、酒のつまみに最高でした。

年の初めから、食い気ばかりの話になってしまいましたが、群れをなす「羊」は、家族の安泰を示し、いつまでも平和に暮らすことを意味しているそうです。

今年1年、企業団の皆さんのご家庭が、また、職場が「安泰」で「平和」であることをお祈りしつつ、地域の方々の期待に応えていくことができるよう、力を合わせていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

（文：副企業長 川良数行）

## 編集後記

みなさん、こんにちは。

2014秋号（創刊号）に続き、早いもので第2号を発行する時期となりました。

原稿作成依頼・取材に快く応じてくださった方々に感謝しております。

これからも、各施設のみなさまにお声を掛けさせていただきます。

その際はどうぞよろしくお願いいたします。

（ふくよか編集担当）



ふくよか

表紙のはなし おせち料理の意味  
伝統的なお節料理には、縁起の良い意味や願いが込められています。  
◎鯛 「めでたい」  
◎数の子「子宝」や「子孫繁栄」  
◎田作り「豊作を祈願」  
◎黒豆 「無病息災」

平成27年1月発行  
編集・発行／長崎県病院企業団本部  
〒850-0033 長崎市万才町4-12 日本生命ビル旧館6階  
TEL.095-825-2255 FAX.095-828-4759  
E-mail : honbu@nagasaki-hosp-agency.or.jp  
URL : <http://www.nagasaki-hosp-agency.or.jp/>



長崎県病院企業団

検索